

はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介します。

第六回目は、第12代社長黒川博昭の足跡を受け継がれてきた言葉と共にご紹介いたします。

1. 第12代社長 黒川博昭

2003年（平成15年）6月、富士通（株）の第12代社長に黒川博昭が就任します。

黒川は、システムエンジニアとしてお客様との接点の大切さや、現場での苦労体験から、社長就任後もお客様や工場、支社などの現場に出向き、実際に自分の目で見たり、現場やお客様の話を聞き、自ら現場主義を貫きます。社長在任中は、トヨタ生産方式によるものづくり革新活動の実施や、フィールド・イノベーションの提唱など、継続的改善を遂行するための基盤を築いていきました。

2003年（平成15年）は、地上デジタルテレビ放送の開始や、小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられた年でもありました。「はやぶさ」は、人類初のミッションを終えて7年間・60億kmの旅から地球に帰還しますが、その立役者が富士通の「軌道決定システム」であったことはご存じですか。

2. 現場・現物・現実

「現場・現物・現実」、黒川が社長就任当初から繰り返し社員に語りかけてきた言葉です。2007年（平成19年）4月、富士通グループ入社式では、次のようにトップメッセージを発信しました。

「もう一つ、グループ全体の価値観として、グループ全体で認識を合わせおきたい言葉があります。出来るだけシンプルに考えて、行動できることを目指しています。まず、「お客様起点で考え、行動し続ける」。お客様の目線に立って物を考えて行動するということです。そして、「納期と品質を守り続ける」。コストを含めて、納期、品質を守り続けるということです。そして、「スピードをあげ続ける」。スピードではどこの会社にも負けないことをやっていきたいと思います。そして、これらを机上ではなく、現場、現物、現実 に即してやっていきたいということです。」

「資料の中に、「見たか、何故だ」という言葉がありました。（中略）つまり、自分の目で見たのか、現場、現物、現実をしっかりとつかんだのか、それで何がおきたのか、という人まかせではない行動が必ず要求されるということです。（中略）富士通にも、池田さんが言ったように、議論する時には上司も部下もない、とことん考えて調べても分からないものは、やってみなければ分からないといった社風があります。是非皆さんには、このPDCAのサイクルを回すこと、そして現場、現物、現実で考えて行動する、ということを忘れないでいただきたい。」

このメッセージを受け継ぎ、富士通は、今までの経験から現場力を培い、新たな発想や提案を生み出し、お客様とともにICTの力でより豊かな社会を実現してまいります。



第12代社長黒川博昭



グループ会社訪問(2003年10月)

3. フィールド・イノベーション

2007年（平成19年）5月、黒川は現場の経験から、現場・現物・現実を可視化し、改革する「フィールド・イノベーション」について、次のようにトップメッセージを発信しました。

「「フィールド」というのは、あくまでも解決すべき対象をどう設定するかによって変わる訳です。その中には必ず人がいて、複雑に絡み合ったプロセスがあって、そして既存のITがあります。そこをもう一度謙虚に人の動き方、プロセスを人の目で見て、ITはツールなどを活用してまともに動いているかを見て、ムリ、ムダ、ムラをもう一度人の知恵で見直してみる。そして、もう一段上のレベルの仕事のやり方に変えていく、そういうことをフィールド・イノベーションと言っています。（中略）

人とプロセスとITと言いましたが、ITだけ変わるのではなく、やはり人もプロセスも変わり続けます。人が考えなければ、人が行動しなければ、いつまでたっても同じレベルしかありえないわけで、やっぱり、フィールド・イノベーションの主役は人であり、人がエンジンなのです。」（「社内報富士通」2007年(平成19年)5月号）

富士通グループでは、フィールド・イノベーションを事業方針として自ら取り組んでいます。その経験、実績を活かして、現場を可視化し、お客様の業務改革のお手伝いをしてまいります。



富士通フォーラム2007の宣言



ワークショップの風景

4. 富士通の歴史見学施設

富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しください。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。